



安全の確立、交通政策実現に向けた取り組み



慰霊碑へ献花後 列車通過確認



信楽高原鐵道技術者との意見交換

**信楽高原鐵道列車衝突
事故から安全を学ぶ**

5月16日、中央本部と地方本部・総支部の安全担当役員で、1991年5月14日に発生した列車衝突事故現地への訪問、献花を行い、黙とうを捧げた。その後、「セーフティしがらき」にて展示施設に学び、事故当時を知る信楽高原鐵道技術者との意見交換を行った。

現地への訪問と、当時の時代背景を踏まえた事故概要等の説明を受け、意見交換することにより、多角的に事故を理解できる機会となった。過去から繰り返し発生する事象を根絶するためにも、この間の労使で議論を重ねてきた**事故の未然防止の取り組みや事業者間の連携の重要性を再認識**した。得た知見は、「安全の確立」に向けた労使協議や各種安全の取り組みに繋げ、JR東海グループで働く全ての仲間の「死亡事故・重大労災ゼロ」実現のために不断に取り組んでいく。

**三日月大造滋賀県知事との意見交換
労働組合としてやるべきこと**



三日月知事（前列中央）と参加者一同

同日、滋賀県公館を訪問し、三日月大造滋賀県知事（JR西労組出身）と、交通政策等に関する意見交換を行った。同県が先進的に導入検討している交通税（公共交通を公共財ととらえ、その維持・拡大のために県民に負担を求める税）の議論経過を共有するとともに、交通政策全般の課題や、認可制となる鉄道運賃の課題、診療報酬等の公定に関する課題など広範な議題について多くの議論を重ねた。

三日月知事からは、JR西労組での経験を踏まえ「**労働組合役員の皆様が通常業務を行いながら組合活動に取り組むことは並大抵の努力ではできないことであり、その献身と責任感に深く敬意を表す。組合員の声を届**

け、より良い会社としていくための活動を今後も期待する」との激励を受けた。また、鉄道運賃制度など産業共通の課題に対する、JR他社との協働に向け労働組合が果たすべき役割の重要性を説かれた。

今回の訪問を通じ、この間の労使協議経過も踏まえ、考えを深度化する機会となったほか、地域公共交通の重要性や、労働組合での各種取り組みと政治の関わりを改めて強く認識した。

JR東海ユニオンは、安全・安定輸送の確保と地域交通の発展に向け、JR連合との連携を深め、積極的に取り組んでいく。